

写真・昭和56年7月 『獨道中五十三驛』復活初演



2017年6月11日 [日]

14:00 開演 (13:30 開場) * 16:30 終演予定

【会場】 京都芸術劇場 春秋座 (京都造形芸術大学内)

【入場料】 無料・往復はがきにてお申込み下さい ※先着順

「猿翁アーカイブにみる三代目市川猿之助の世界」第二回フォーラム

◎ 映像で振り返る復活狂言

『獨道中五十三驛』

ひとりたび

ごじゅうさんつき

◎ 三代目猿之助クリエイションの現場

三代目市川猿之助(二代目猿翁)さんから京都造形芸術大学に寄贈いただいた貴重な歌舞伎関係資料をもとに、三代目猿之助の軌跡をたどるフォーラムの二回目。今回は、2部制でお届けします。第一部は、三代目猿之助が昭和56年に復活させた鶴屋南北原作『獨道中五十三驛』をテーマに、寄贈資料のなかからデジタル化された映像をご覧ください。三代目本人が制定した「猿之助十八番」に名を連ねる本作は、復活初演時に三代目猿之助が十八役を演じ、上演時間が7時間を越えた大スペクタクルです。当代猿之助も挑戦し、昨年春秋座でも上演されました。第二部は、「クリエイションの現場」と題し、三代目猿之助の創作過程をさぐります。どちらもゆかりのゲストをお招きし、三代目猿之助が歌舞伎界、舞踊界に投じた一石、その奮闘について語っていただきます。

京都造形芸術大学で、二代目猿翁の寄贈資料デジタルアーカイブ化にあたり、2016年度第一回フォーラムや四代目猿之助春秋座公演、本学ホームページで寄附を募った結果、合計 3,179,416 円のご寄附が集まりました。心より御礼申し上げます。本事業で使用する映像は、寄附金によりデジタル化したものです。現在、寄贈映像全 2,464 本のうち、387本のデジタル化処理が完了しており、お寄せいただいた寄附金により更なるデジタル化を進めております。

2017年6月11日 [日] 14:00 開演 (13:30 開場) * 16:30 終演予定

<プログラム>

● 第一部【映像で振り返る復活狂言『**獨道中五十三驛**』】…………… ゲスト：石川耕士（脚本家）

ひとりたびごじゅうさんつぎ

<休憩>

● 第二部【三代目猿之助クリエイションの現場】…………… ゲスト：杵屋東成（長唄唄方）
杵屋勝祿（長唄三味線方）
聞き手：田口章子（京都造形芸術大学教授）

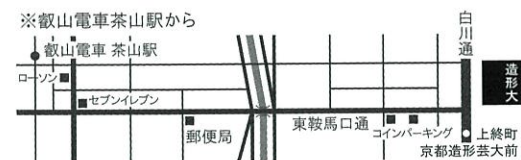


三代目市川猿之助（二代目市川猿翁）

1939年（昭和14）生まれ。つねに「時代とともに生きる歌舞伎」をめざし、伝統の継承と創造に全身全霊をかけて走り続けている。「猿翁十種」をはじめとする家の芸の継承はもとより、『義経千本桜』『加賀見山再岩藤』などの古典歌舞伎の再創造、『菊宴月白浪』『競伊勢物語』などの古劇の復活、さらには『ヤマトタケル』や『新・三国志』シリーズなどのスーパー歌舞伎の創造まで、パワフルな活動はみごとに芸術的完成を見せる。現代歌舞伎に多彩で豊穡な成果をもたらしてきた演劇活動の中から「猿之助十八番」のちに「三代猿之助四十八撰」を制定した。歌舞伎にける熱い思いと革新的な発想は、三代目市川猿之助が育てた弟子たちにも確実に受け継がれている。平成24年6～7月新橋演舞場において、祖父が名乗った猿翁の名を二代目として襲名し、甥の市川龜治郎に猿之助の名を譲った。京都造形芸術大学では、平成5年に芸術学部教授、平成12年～17年副学長に就任。集中講義では学生に歌舞伎の実技実演指導も行なった。同大の春秋座には徳山詳直前理事長とともに劇場の構想・設計から関わる。初代芸術監督として、柿落し公演の『日本振袖始』はじめ、数々の舞台を企画し出演した。

京都芸術劇場 春秋座

京都市左京区北白川瓜生山2-116 京都造形芸術大学内



会場案内
 ■JR・近鉄京都駅、京阪三条駅、阪急河原町駅から京都市バス5番「岩倉」行き乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車（京都駅から約50分、三条駅・河原町駅から約30分）
 ■京都市営地下鉄丸太町駅・北大路駅から京都市バス204循環「高野・銀閣寺」行きに乗り、「上終町・京都造形芸大前」下車（約15分）
 ■京阪電車出町柳駅から叡山電車に乗り換え、茶山駅下車（徒歩約10分）
 ※駐車場はございませんので、お車・バイクでのご来場はお断りします。
 ※所要時間はあくまで目安です。交通事情により大きく変動します。

申込方法

下記をご参照いただき必要事項を全てご記入の上、**往復葉書にて**お申し込みください。

【往信表面】〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116

京都造形芸術大学舞台芸術研究センター宛

【往信裏面】①代表者ご氏名（ふりがな）

②ご住所（郵便番号含む）

③お電話番号（日中の連絡が可能なもの）

④参加人数（2名まで）

※車椅子をご利用のお客はその旨お書きください。

【返信表面】お客様のご住所、お名前をご記入ください

【返信裏面】白紙

[申込×切]

2017年6月2日(金) 必着

※先着順・自由席 定員 500名（定員に達し次第受け付けを終了いたします）

[返信]

受付完了後、追って返信いたします。返信ハガキが入場証となり、当日の入場時にご提示いただきますので、必ずご持参ください。返信ハガキをお持ちでない場合、入場をお断りする事がございます。予めご了承くださいませ。

企画：田口章子（京都造形芸術大学教授）

映像担当：倉田修次

協力：松竹株式会社、公益社団法人日本俳優協会、株式会社キノシ・オフィス

主催：京都造形芸術大学舞台芸術研究センター